

禅昌寺通信「道心」第40号

編集 日光山 禅昌寺「道心」編集室 発行 平成23年7月1日

〒732-0002 広島市東区戸坂山根3-2-7 回 082-229-0618 回 082-229-0822 E-mail:zenshoji@etude.ocn.ne.jp ホームページ http://www.zenshoji.org/

ということ ^{禅昌寺住職}横山

なく儒教的な行いになってしまいます。

泰賢

きてきました。 惹かれ、また励まされ、これまで僧侶として生年三月)の「共に学び共に育つ」という言葉に年三月)の「共に学び共に育つ」という言葉に私は、内山興正老師(一九一二年~一九九八

人は一人で何かを成そうとしても、一人で出来ることには限界がありますし、可能性も小さっています。 お互いから学び合い、みんなの力であります。 お互いから学び合い、みんなの力であります。 また、一人では気づかないこともかち合う仲間がいるという、もう一つの喜びを味わうことも出来ます。

ます。供の字は左が人を現し、右の共という字様の御教え又は、この世の真実)を学ぶ姿勢としてお示しになられたわけです。

は物を両手でささげ持っている姿を現していま

ますが、それだけでは仏教徒としての行いではりし、養いとなるお供えを捧げる」と理解されには、「生きている我々が亡くなった方をお祀派生しているとのことです。この供養を一般的す。両手をそろえる意から「ともに」の意味がす。両手をそろえる意から「ともに」の意味が

偲びつつ、様々な事を思い出したり、お話をな 亡くなった方を仏さまとしてお祀りし、供に養仏教的な供養の意味は、「生きている我々が 仏様として活かされますね と一緒に食事をなさったり、一献交わされたり ぶ。また、普段はなかなか会えないご親戚など うというちょっと欲張りな行いです。例えば、 めることができれば、亡くなったご先祖様は 先祖様のご縁で、少しでも自分の人生を深め高 しながら、お互いから養いを戴く。こうしてご さったりして、故人の生涯から人生の養いを学 ご法事の時などには、ご家族やご親戚が集まり 者同士だけではなく、ご先祖様も巻き込んで行 う」ということでなければなりません。つまり しますが、その席に居る人たちは故人の生涯を お花や御霊前をお供えし、お経をあげて供養を 「共に学び共に育つ」ということを生きている

また供養です。 め皆様のご来山をお待ちしております。それもしての供養が成立するよう常日頃から山内を清

光を伝えた人々

愛知専門尼僧堂

堂長 青山俊董師

要に随って散じ去る。一日去らず。でますない。 一日去らず。ではまでは、 一日去らず。ではますないでは、 一日去らず。でありますがいた。 一日まらず。でありますがいた。 「これらいた。」 「これらいた。 「これ

因果の法則は越えられるか

この山の名をもって、通称百丈禅師と呼ばれ や国・洪州の大雄山に道場を開き、おおいに 神風を挙揚しておられたが、この山が非常に 禅風を挙揚しておられたが、この山が非常に でまる かったので 百丈山と呼ばれ、 懐海禅師がある。

いた。

ある日、参禅の居士(在家の男の参禅者)の司馬頭陀がやってきて、「潙山という山はの司馬頭陀がやってきて、「潙山という山は修行の道場にふさわしいすばらしい山だからきた。百丈さまが「この私ではいけないか」と名のり出られたところ、司馬頭陀が「貴僧と名のり出られたところ、司馬頭陀が「貴僧と名のり出られない。しかし『百丈清規』といって、禅門の規矩をはじめて作られたり、後の潙仰宗の祖の潙山霊祐や、黄檗宗の祖の孫中の規矩をはじめて作られたり、もの高いでの祖の潙山霊祐や、黄檗宗の祖の孫中ではあまりあがらなかった方かもしれない。しかし『百丈清規』といって、禅門の規矩をはじめて作られたり、後の潙仰宗の祖の潙山霊祐や、黄檗宗の祖の孫中である。

この百丈さまが大雄山にあって御説法のある度に、一人の老人が多くの修行僧たちの後有丈さまのお話が終わっても立ち去らず、そ百丈さまのお話が終わっても立ち去らず、そこに立っている。そこで百丈さまが、「そこに立っている者は誰じゃ?」とお質ねになった。老人が答えた。

「私は、お釈迦さまがこの世にお出ましにであれたり落ちたりすることはないよ。とがありましょうか。と質問してきたので、とがありましょうか。と質問してきたので、とがありましょうか。と質問してきたので、とがありましょうか。と質問してきたので、とがありましょうか。と質問してきたので、はられたり落ちたりすることはないよ。

解脱の一句をお示し下さい」
に堕し、苦しんでおります。どうぞ私ににの、その罪によって五百生の間、野狐の身

原文は「過去迦葉仏のとき此の山に住す」

「大修行底の人、因果に落つるやまた無しる。

にならない大昔に、この山に仏教の寺のあろとあるが、お釈迦さまさえこの世にお出まし

「大修行底の人、因果に落つるやまた無して大修行底の人、因果に落つるやまた無しり、"因果に落ちることはない"と答え、そり、"因果に落ちることはない"と答え、そのため、生まれかわり死にかわり五百生の長きにわたり狐の身に堕し、今日に至っているというのである。そこで百丈さまは答えられた。「不味因果」と。原因があれば必ず結果が生まれる、因果の法則は時と処を越えて永遠不変の天地の法則で、いかなることがあってもまれる、因果の法則は時と処を越えて永遠不での老人は悟りを開くことができ、野狐身を脱することがである。この百丈さまの一言のもとにこの老人は悟りを開くことができ、野狐身を脱することができたという。

老人は礼拝し、感謝し、さらに「この山の裏での洞穴に野狐の屍があるから、どうぞ供養しての洞穴に野狐の屍があるから、どうぞ供養してめ、裏山へ行き、老狐の屍を、ねんごろにめ、裏山へ行き、老狐の屍を、ねんごろに亡僧、つまりお坊さんを葬るの形で供養した、と伝えられている。

江戸時代後期、

出雲松江の藩主で茶道にも

道暁した松平治郷は、号を不味と称し、武家 名であるが、この不昧の号はこの「百丈野狐」 の話の「不落因果」「不昧因果」よりとった の話の「不落因果」「不昧因果」よりとった

堕ちるもよし 脱するもよし

せ、その横で大賀蓮が幼い葉を広げはじめている。千葉県検見川遺跡から発掘された蓮の 種が、大賀博士の努力により二千年の睡りから醒めて発芽し、みごとに花をつけた。名づけて大賀蓮と呼ばれ、多くの愛好家の手を経けて大賀蓮と呼ばれ、多くの愛好家の手を経て無量寺にも到着し、二千年の命を保だけの底力があるのか、他の白や黄の蓮よりも一番底力があるのか、他の白や黄の蓮よりも一番

に見る思いで、思わず衿を正す。地の因・縁・果の厳然たる法則を目の当たりた種は縁が熟すれば必ず結実するという、天をは縁が熟すれば必ず結実するという、天

その根の深さ、強さに慄然とする思いがするの根の深さ、強さに慄然とする思いがする因果のしがらみのあることに思い到り、たる因果のしがらみのあることに思い到り、たる因果のしがらみのあることに思い到り、たる因果のしがらみのあることに思いがある昔、その根の深さ、強さに慄然とする思いがする時に流れる三千年余の長さにわたる因果のしがらみのあることに思いがする。

いうまでもない めた背景には、果」よりとった するものであらめた人として有 私が尼僧といめた人として有 私が尼僧といめた人として有 ることである。

あれを思いこれを思うとき、因と果のかかも、修験道の先達であった祖父の予言が起因 するものであり、祖父をしてその道に赴かしめた背景には、さらに二代三代にわたって仏 めた背景には、さらに二代三代にわたって仏 があることも間違いない事実である。

あれを思いこれを思うとき、因と果のかかあれを思いこれを思うとき、因と果のかける「因果歴然」とは、この一面からの語りかけにはいかない。この則が語りかける「因果不味」いかない。この則が語りかける「因果歴然」とは、この一面からの語りかけであろう。

「不昧因果」、つまり因果の法則は味ますことはできないという一面からのみ見ていると、因果のしがらみにガンジガラメにしばらと、因果のしばられないというと、因果の力まり因果にしばられないというと、因果のおりかねない。

「不味」と「不落」とは、言葉を替えれば「必然」と「自由」ということになろう。余語翠厳老師はよくおっしゃった。「自分の終生の命が必然なのか自由なのか、よく分か終生の命が必然なのか自由なのかがある。

因果」であろう。

この天地の道理に随順しつつ、しかも、いこの天地の道理に随順しつつ、しかも、いっまさらに一歩進んで「堕脱ともに風流」、つまり野狐身に落ちるもよし脱するもよしと、どうなろうとそこを正念場として姿勢を正してかめあげ、さらに一歩進んで景色としてたの助めあげ、さらに一歩進んで景色としてたのしんでゆこう、と呼びかける。これが「不落しんでゆこう、と呼びかける。これが「不落しんでゆこう、と呼びかける。これが「不落した」というという。

たとえば病気になる日もあろう、地獄の底を這いまわるような思いの時もあろう。逃げを言いまわるような思いの時もあろう。逃げず、ぐずらず、積極的に病気から学ぼうという姿勢で立ちむかう、地獄におちたら地獄にこでしか見ることのできない世界を、十分に見きわめ、たのしませてもらおうと、展望のきく山頂にあると同じ姿勢で立ちむかうことができたとき、すでに地獄は地獄でなくなり、体は地獄にありつつも、心は地獄を脱したといえるのではなかろうか。

癌のために四十七歳の人生を閉じてゆかねをだいた時、ただちにそこがお浄土と変じの御説法の一等席であった」と気づかせていの御説法の一等席であった」と気づかせていいならなかった鈴木章子さんが、「癌のお陰ばならなかった鈴木であった」と気づかせているように。

癌を病んでいる事実に変わりない。これが 不味因果である。しかし「癌のお陰で」と癌 を拝み、「肺癌のベッドの上が如来様の御説 法の一等席」と喜べたとき、因果のしがらみ から解きはなたれた―不落因果―といえる のではなかろうか。

仏教徒としての

東堂 横山 正賢

修証義 第四章

発願利生第十九節

極妙の法則なり。

「関の形陋しといふとも、此の心を発せば、其の形陋しといふとも、此の心を発せば、其の形陋しといふとも、此の心を発せば、其の形陋しといふとも、此の心を発せば、其の形陋しといふとも、此の心を発せば、其の形陋しといふとも、此の心を発せば、

ます。 る上での基本的心得を教示されたものであり この節は、前節の教えを仏教徒として生き

を願う心を発すべし」とありました。 と願う心を発すべし」とありました。 と願う心を発すべし」とありました。 というとも、楽にありというとも、芋にありというとも、楽にありというとも、芋にありというとも、芋にありというとも、芋にありというとも、芋にありというとも、楽にありました。

解致したく思います。
がの法則なり」と強調されている処を深く理り」「男女を論ずることなかれ」「これ仏道極り」「衆生の慈父な

問されているお言葉だと言えます。 問されているお言葉だと言えます。 問されているお言葉だと言えます。 問されているお言葉だと言えます。 問されているお言葉だと言えます。 日本ではごく最近まで男尊女卑や大人子供 といった、差別的な思想がありました。現代 とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や とあった時代に、道元禅師は仏道には差別や

特に「設ひ七歳の女流なりとも即ち四衆の 導師なり」と言われているところは「此の心 を発すれば、たとえ七歳の女児であろうとも 四衆【比丘(男僧)・比丘尼(尼僧)・善 男・善女】の導師なり」と仏道の導き手は 出家在家・貴賤・老若・男女を問わず「菩提 いを発こすというは、己れ未だ度たらざる前 に、一切衆生を度さんと発願し営むなり」の に、一切衆生を強調されているところです。 私が育った幼い時代は、見えないものに対

二十歳で出家した私が、師匠の元で修行を な」「損得を考える生き方をするな」「ただ るな」「損得を考える生き方をするな」「ただ るな」「損得を考える生き方をするな」「ただ は道にのみ照らして生きろ」とよく言われて は道にのみ明らして生きろ」とよく言われて が、師匠の口癖は「生まれ が、師匠の元で修行を

衆生の導師なり」「たとえ七歳の女子であろ

「その形いやしというとも、」 どんな境遇立場

「此の心を発せばすでに一切

此の願いに沿って生きると言うことは

ない生き方を教えられました。 うがいまいが、授けられている命を疎かにし き方」を教示していたのです。人が見ていよ は「何事も一期一会精魂を輝かして生きる生 と厳しく言ってくれたのでしょう。その裏に 抜いていて「損得を考える生き方をするな」 熟な私は心の中で「兄弟子達は楽をしている、 勢を「生まれてきたついでに生きている……」 仕方なくしていた姿を師匠は何処かで見て感 たこともない私は兄弟子に教わった通りして 所ありました)と言われ、お便所掃除などし 所の掃除をして学校に行け」(お便所は三ヶ お寺に入り師匠から「正賢お前は明日から便 ありました。師匠はそんな私の心の葛藤を見 自分は損している……」等と卑しい気持ちも 「明日もあるという生き方をするな……」 未 じたのでしょう。そのような私の無気力な姿 「今日しなくても明日に……」と思いながら いたつもりですが、内心「汚い、いやだな」 気ままな学生生活をしていた私ですから、

禅昌寺の建設に携わった建築家を始め大工・左官・職人さん達が、与えられた使命を い姿であるように、又禅昌寺は何時も綺麗で 黙々と全うされた結果が禅昌寺の建物の美し 黙々と全うされた結果が禅昌寺の建物の美し

方が、日本の文化としてあったように思いま

して恥ずかしくない生き方をするという生き

ご精進下さる賜物で御座います。
る職員の皆様がご自身の魂を磨くが如く毎日る職員の皆様がご自身の魂を磨くが如く毎日

て活かされている歓喜の姿だと思います。禅昌寺に携わる皆さんが将に仏様に抱かれ

の進展もないまま時間だけが過ぎているように感 被災された方々や地域におかれましては、復興へ 東日本大震災が起こって早三ヶ月になりますが

戴きました檀信徒の皆様、坐禅会の皆様、 活動を行っておりますのでご報告いたします。 そのような状況下、禅昌寺では左記のような支援 また、この場をお借りして、これまでにご協力 、山の会

を頂戴しておりますことに心から感謝申し上げます。 の皆様、爽やか音楽コンサート参加者関係者の皆様など、多くの方々からご支援

禅昌寺住職 横 Щ 泰 贀 合掌



活動報告 、被災地支援コンサート

四月二十三日に開催した爽やか音楽コンサ 引いた三十六万八千円を義援金として中国 トの入場料から必要最低限の経費を差し

新聞社に届けました。(五月一日付け中国

- ただきました。 被災寺院義援金として五万円を拠出してい ただき、曹洞宗義援金窓口に入金させてい 禅昌寺道心会 (坐禅会) 様より、曹洞宗
- 宮城県石巻市洞源院避難所ボランティア
- 災者を受け入れておられる宮城県石巻市洞 五月三日から五日まで、百五十名ほどの被 源院様にお手伝いに行って参りました。

詳

る。そこで、漁業復興の励みになるよう どの家が津波の被害に遭っており、近い とご縁のある宮城県石巻市に所在する洞 ので、調べてもらえないだろうか。」 別に利益やリスクを共有しながら、組織 広島地域の漁業者が漁業協同組合等とは いう気持ちにはなれないのが現状であ ばならない。しかし、皆さんとてもそう 将来漁業の復興ということを考えなけれ 家さんの殆どが漁業者であるが、その殆 まりました。その電話の内容は、「お檀 源院副住職様からの一本の電話により始 的に漁業を営んでいるという情報がある な復興策のようなものが必要となるが、 このボランティア活動への参加は、

生産組合を設立することが、ゼロからの 生産組合について資料を集め、この漁業 復興に役立つことを説いた資料を作成し 表理事の方から詳しいお話をお聞きしま を始め、広島県庁水産課にご紹介いただ 、た大竹市玖波漁業生産組合に赴き、代)た。また、漁業協同組合法による漁業 私は、この依頼を受けて、直ぐに調査

イア活動に参加させていただきました。 に、宗門僧侶有志十五名によるボランテ この資料を洞源院様にお届けするため

主なボランティアの内容

(一) 炊き出し 賄いを担当されておら れる方にお休みを取っていただく ため、五月四日の朝食、夕食の炊 き出し(昼食は配給食)をお手伝

いさせていただきました。

- 傾聴活動 話をお聞きしました。 被災された方々のお
- 慰霊法要 川地区にて慰霊法要のお手伝い をさせていただきました。 日和山公園並びに女

四

懇談会 石巻漁業関係者との懇 させていただき、資料を皆様にお 配りしました。 談会。先述の資料を基にお話を



洞源院御住職小野﨑秀通老師のお話

難してきて、お寺中足の踏み場もないほ どだった。その時お寺に米が三十キロほ ンベを拾ってきて、使っていた。 大変で、瓦礫の中からプロパンガスのボ ど有ったが、四百名分のご飯を炊くのが 震災当初は、四百名ほどの被災者が避

いて山を越えて被災していない隣村まで 四日もすると米が足らなくなって、 一軒一軒の家を廻って米をいただ

行き、

何とか凌いだ。

災者同士が譲り合い分け合うという心を ないくらいが丁度いい。 心の問題として良いことではない。足り 援物資が配給され、有り難いことだが、 大切に生活していたが、今は余るほど支 震災当初は、そんな状況だったから被

洞源院の生活と子供たち

洞源院様では、

毎朝五時起床、

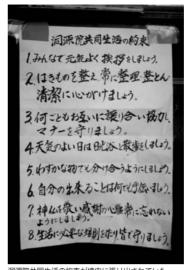
れて有難う。

ここまでしてくれて……遠くからきてく

ろうが、また立ち直れると思う。また漁

に出たいさ。漁業には素人の和尚さんが

ったが、今回はひどい。時間はかかるだ てきた。台風や大潮にやられたこともあ



洞源院共同生活の約束が境内に張り出されていた

賄い担当岡田さん(通称マスター)のお話

ら。みんな旦那や身内を亡くしてるけど も全部なくなったさぁ。でも生きてるか といわれて、びっくりしたっけな~ ねえな。余計なことばつか考える。 俺は飲み屋やってたけど、これで家も店 粥を作る米の量も同じ量で作るんだから いい仲間よ。 でも、一人になるといけ '緒に居るから明るくやってられる。 -人分のお粥を作る米の量も百人分のお 三日目頃から米が足らなくなってき 方丈さんに相談したら、永平寺では

漁師雁部さん (通称区長さん) のお話 学んだこと

と大きな声で唱える子供達に思わず胸が しめて 生きてる今を 愛して行こう みひとつ涙ひとつ 出逢いも別れも抱き 院の奥様と一緒に御詠歌を唱え「ほほえ 略三宝を唱える。お勤めの最後には洞源 で「じーほーさんしーいーしーふー」と などは、回向が終わるたびに、大きな声 子も数名いると聞いた。朝のお勤めの時 ませてくれている。中には親を亡くした

則正しい生活により安心を与えられるか あるそうです。それは、洞源院様での規 行かれた方がまた戻ってくることが度々 洞源院様では、 余所の避難所へ移って

のことは恨んでねえんだ。

六十年ぐれえ漁してきて、恩恵に与っ

俺らは船も何も無くなった。けど、海

常に五名の子供達が混じり、みんなを和 れる。基本的な生活リズムが永平寺など ング、一日の予定や様々な出来事への対 朝食を取る。その後本堂で全体ミーティ ら朝のお勤め、六時半からラジオ体操を どを整理整頓し、洗面して 午前六時か 応等を皆で話し合い、情報の交換も行わ して、みんなで手や口を消毒し、清掃 宗門の修行道場と同じである。その中に

津波で壊滅した見るも無惨な女川地区

まうと、それが自己の安心や拠り所とな ズムや規則でさえも、全てを亡くしてし らだと教えられました。普通の社会生活 では否応なしに規定されてしまう生活リ っていたということに気づかされるので

る法句経に次のような教えがあります。 知足(足ることを知り、欲望を小さくす 本当の意味で人の心に安らぎを与えると をしているから時には我慢しろというよ る)の御教えは、我々が普段贅沢な生活 いう真実であることを学びました。 うな事ではなく、小欲知足の生き方が、 また、洞源院方丈様のお話から、小欲 現存する経典の中で最も古いといわれ

> まことえがたき よるべをぞ獲ん よくととのえし おのれこそ おのれを措きて誰によるべぞ おのれこそ おのれのよるべ

ず、何も持って逝くこともできません。 ように感じます。 あり、友人があり、仕事があり、なんで 暖かい家庭があり、住む家があり、車が 今の私たちには、規則正しい生活があり、 べとは何か、痛烈に突きつけられている てが亡くなったら……本当の自己のよる もありの真っ直中にいますが、それら全 んで逝きます。誰に依存することも出来 人は一人で生まれてきて一人きりで死

供養であり、日本社会全体への貢献とな るのではないかと思うのです。 生きていくことができれば、何よりもの 駄にしてはならないと強く感じました。 多くの尊い命と、被災され苦しい生活を なことを学び、人としてもっと深く尊く の大震災から見落としてはならない大切 我々ありありの真っ直中にいる者が、こ 強いられている多くの方々のご苦労を無 私は、この度の大震災で亡くなられた

ております 参りますので、皆様のご協力をお待ちし 復興を中心に引き続き支援活動を行って 禅昌寺では、被災された曹洞宗寺院の

だきます。 を皆様にご紹介し、ご報告とさせていた の母としてあまりにも忙しい生活の中 ことを心配され、ノートに記された文章 最後に、洞源院のご寺族様が、避難所 大震災の経験が忙殺され薄れていく

6



洞源院寺族 小 野 﨑 美紀

ふるさとをぶち壊した。 あんなどでかい暴れ波をおくりこんで私の大事な あの地震はいったい何だったんだろう。

堤防がめくれている。 蹴っ飛ばし、私の大好きだった長浜も浜が亡くなり り落とし、大口を開けて大切なみんなのマイホーム を噛み砕いた。ドンガドンガと巨人の足で海岸線を へ投げつけた。木によじ登った人をバッサバッサ振 人々は逃げまどい、車をプカプカ浮かし遠い場所

これから咲く浜夕の花は、だれを思って咲くのだ

が帰ってこないと思いこんでしまっていた。南無観 を懐に入れ、絶対おまえといっしょなんだからと 「おはな」に言った。「おはな」がいなくなったら娘 娘たちが友達からもらって飼った猫の「おはな」 南無観世音と懐の「おはな」と唱えていた。

四〇〇人の避難者のお世話をしながら………。

なを消毒しなくてはならない。携帯電話がダメで、 子供達のちっちゃいクツを泥だらけのデカ靴が踏み つけている。挨拶をしない、他人の家で大声で喚い 水がない、トイレが詰まる、電話がダメで、みん

せき込む! 発熱! 嘔吐-おまえはどこの何者だ! 寒い! 暗 い ! 狭い!

これが私の嫁いだ今年九五〇年になるお寺のこ

一秒たりとも気がゆるせない! 次々と余震が襲っ

って、泥水をかき分け歩いて帰って来た。感謝感謝 三日目の朝、長女真弓がずぶ濡れで、胸まで浸か

無事帰った。涙、涙。 四日目の昼、次女の静香が羽黒山に逃げて助かり

南無観世音、南無観世音。

家族全員無事が確認できた。 南無観世音、南無観世音

た。その時私は、三〇〇人の母さんになっていた。 ようやく、朝、顔を洗って眉を書き、薄紅をひい

来る ………。 盆はうれしや別れた人も、はれてこの世に会いに



どこで! 嬉しいて! そんな気持ちになれるかっ

忌が迎えようとしている。悲しみのどん底にいる縁 ある人々をせめてお盆さままでに仏さまに逢える嬉 し涙にしてあげたい。

ます。どうぞ御仏さまお守り下さい。 祈りの心があるかぎり絶対にくじけず、立ち上がり 大暴れされるかもしれない。でもみんなの心の中に もしかすると御仏さまを忘れると、どこかでまた



石巻市洞源院避難所の皆さんと

拿

南無観世音、南無観世音大菩薩

道心趣味

の会

俳 旬

- 川蜻蛉釣れない竿に止まりけり
- 空っぽのバスが入り来て山青し 蝉を牽く蟻の千人ぢからかな

廿日市市 伊 藤 郎

- 高速道全山こぶしちりばめて
- 松尾寺の香りも高き枝垂れ梅 成相寺残りの雪の七曲がり
- 伊吹山残雪しろき雄姿かな
- ひたひたと琵琶湖と語る春の雨

東区戸坂 青笹 俊枝

大本山永平寺 不老閣参拝記念 (平成23年5月30日)

彼岸会法要、 三月十七日 護持会総会

りお彼岸法要に引き続き、護持会総 約百五十名の参拝者があり、例年通 会が開催され、役員改選が行われま

年頭坐禅会

行事報告

(一月~五月)

正月元旦

爽やか音楽コンサート 四月二十三日

新年修正会(大般若祈祷会)

せんが、清々しい年頭となりました。 ここ数年三名程度の参加者しかありま

正月元日

として、中国新聞社に届けました。 ご長男)、バイオリン高橋宗久さん 奏に二百名の参加者が魅了された。 ピアノ伊藤優さん(禅昌寺檀信徒家 十六万八千円を東日本大震災義援金 (九州交響楽団バイオリン奏者) の演 人場料から最低必要経費を引いた三

青山俊董老師講演会

一月二十八日

賑わいました。

厳しい冷え込みの中大勢の参拝者で

相変わらず大勢の参加者があり、老師

の爽やかなお話で、皆が法悦に浸った。

座いました。 ご協力していただいた皆様有難う御

大本山永平寺参拝旅行 五月二十九日~三十一日

した。和倉温泉では皆が打ち解け楽 しい一時と温泉を堪能しました。 の御礼のご挨拶をさせていただきま もお参りし、今村源宗老師に晋山式 た。また、大本山總持寺能登祖院に 御礼のご挨拶をさせていただきまし 平寺に参籠し、禅師様にお受戒会の 二十四名の参加者と共に、 大本山永

行事案内

(六月~九月)

お盆前諸堂大掃除 下さい。二時間ほどで終わります。 お子さんお孫さんとご一緒にご参加 七月二十四日(日)午前十時より お昼はお素麺を用意しております。

盂蘭盆会法要

施食会引き続き法話を行います。 八月六日(土)午前十時半より

青山俊董老師講演会

正法眼蔵現成公案の御提唱 九月三十日(金) 参加費 昼食代 午後の部 午前の部 午前午後 十三時半~三時 十時半~十二時 各千円 百円

- 坐禅をされる方は九時より
- にてお申し込み下さい 昼食を希望される方は、 予め 電話

|毎週定例行事

毎朝午前五時半~六時十分まで 暁天坐禅会 月曜日~金曜日

● 一般坐禅会 午後七時より坐禅・茶話会 終了八時半 毎週水曜日

婦人坐禅会 毎週金曜日

午後一時より坐禅・茶話会 終了三時 (第一金曜日のみ坐禅の後、 写経

原 稿 募集

お寄せ下さい。 味の短歌俳句など何でも結構です。 皆様の随筆、 旅行記、 体験談、 趣

|毎月定例行事

上田宗箇流茶道稽古日

※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむつも りでご参加下さい。 每月一回第四金曜日午後一時 から

御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習 第四金曜日午前九時より講師を招 いて練習 昼まで

茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師 す。初めて参加される方は、 の都合により変更する場合もありま ご確認下さい。 電話にて

*